

ひらかたの小中学生がえらぶおすすめ本投票 2023

キラッと光るおすすめコメント

小学校1年生

☆「大ピンチずかん」 鈴木のりたけ／作 小学館

おもしろいし、いっしょの、大ピンチになっても、よめば、ましになる。

☆「最強王図鑑シリーズ」 学研プラス

たたかういろんなどうぶつやドラゴンやこんちゅうやモンスターがかっこいい。

☆「おさるのジョージ」 M.レイ／原作 岩波書店

テレビでもよく見るからだいすき。でも、えほんでよんでもたのしいしおもしろいからおすすめする。もうちょっとくわしくゆくと、「おもしろいし、いろんなしゅるいがある」からもいっかいゆうけどおすすめする



小学校2年生

☆「おばけずかんシリーズ」 斉藤洋／作 講談社

こわいけど、どうしたらいいのかを書いているから大丈夫!

☆「わたしおてつだいねこ」 竹下文子／作 金の星社

なんでおてつだいねこをおすすめにしたかと言うと私みたいにおっちょこちょいで可愛いからです。

☆「ふしぎ駄菓子屋銭天堂にようこそ」 廣嶋玲子／著 偕成社

銭天堂のお菓子がたくさん載っていて、食べ方、特徴、注意事項が書いてあるから面白いからです。



小学校3年生

☆「保健室経由、かねやま本館。」 松素めぐり／著 講談社

保健室の下からかねやま本館に行けるのがすごい。

☆「わゴムはどのくらいのびるかしら？」 マイク・サーラー／ぶん ほるぷ出版

旅をして行って宇宙まで行って輪ゴムが元に戻ろうとする力でベットの上面に着地するところが不思議だから。

☆「グレッグのダメ日記12 にげだしたいよ！」 ジェフ・キニー／作 ポプラ社

ヘフリー家のみんながりょ行先でハプニングをたくさん起こす面白さがたまらないから。



小学校4年生

☆「サイアク！」 花田鳩子／作 PHP 研究所

小学校のあるあるっぽいから、その本読んだらこういう事で考え込んでる人が自分だけじゃないと思って少し安心するし自分としてこういう友達関係の本が好みだからです。

☆「なりたい！が見つかるお仕事図鑑」 朝日新聞出版／編著 朝日新聞出版

その職業はどんなのか、月給や休日、在宅ワークが可能かなど詳しく書いてあって良かったし、私のパパとママが見ても面白いといていたからです。

☆「給食室のいちにち」 大塚菜生／文 少年写真新聞社

給食を作っている人たちが、こんなに苦勞して作ってくれているし、給食の秘密が書いてあるから、楽しいです。



小学校5年生

☆「オオサンショウウオの夏」 阿部夏丸／著 佼成出版社

不思議で面白くて、あとで「あー！」となる、魚に興味がない人にもおすすめです。

☆「あつ、ひっかかった」 オリヴァー・ジェファーズ／作・絵 徳間書店

最初は普通の絵本ですが、どんどん面白おかしく変化するところがおすすめです。



小学校6年生

☆「死にたいけどトッポッキは食べたい」 ペクセヒ／著 光文社

メンタルが弱くて不安になることがあるけど、ある食べ物のおかげで生きたいなと思うお話だから感動します。

☆「日本沈没」 小松左京／著 KADOKAWA

リアルな災害シュミレーションで、数十年前に発刊されたが、今でも色褪せ無い名作。すでに何本ものドラマや映画が作成されており、1度は読んで欲しいので。

☆「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」 汐見夏衛／著 スターツ出版

物語の主人公の気持ちへの共感や、話全体を通じて恋愛要素もありながら最後は泣いてしまうという、一つの作品で沢山の気持ちがわいてくるからです。



中学生

☆「スベらない同盟」 にかいどう青／著 講談社

主人公や、物語設定が中学校なこと。挿絵がないから、完全な想像の世界で楽しむことができるから。前半の伏線が後半で驚きの回収があって面白いから。世界観がわかりやすく想像がしやすかったから。家で買おうかなと思いました。

☆「北上症候群」 いぬじゅん／著 実業之日本社

本を読むと情景が手にとるようにわかり、非日常への没入感が味わえる。さらに、情景が非常に美しく、本を閉じた時の満足感が大きい。登場人物それぞれに個性があり、人間味があり、登場人物の言動を通して自分のことについてもよく考えることができる。自分のことについて、たとえ解が出なかったとしても、最後には本が爽やかなクライマックスで心を晴らしてくれる。世界一爽快感のある小説だと私は思う。

☆「バカのすすめ」 林家木久扇／著 ダイヤモンド社

とにかく面白いというのが一番目の理由で、この本を読むと気持ち
が楽になるし世界の見方が少し変わってとても良いと思ったから

